

# 地元の産業知る機会

## 市役所ロビー

本田技研工業の基礎研究を行う研究所など同社の主要な施設が集まる和光市で、創業者本田宗一郎氏が情熱を注いだバイクの歴史を知ってもらおうと、同市は4日から、同社の歴代バイクを市役所ロビーに展示する。バイクは月ごとに入れ替え、毎月1〜2台を2年にわたって展示する。市は「市のブランド力アップにもつながる。地元の産業を知ってもらうようにしたい」と期待している。

同社は1953年、現在、ど、古くから市とつながりの同市白子地区にエンジンを持ち、世界的な企業に成長した。現在は国内営業

とサービス部門の拠点のほか、自動車のデザインと基礎研究を行う本田技術研究所がある。

同市の松本武洋市長が2013年、市内にある同社の関連会社のイベントで、展示されていた昔のバイクを見て、文化的にも価値のあるバイクを市役所に展示してもらえないか打診し、同社が快諾。同社の関連施設で保管、展示していたバイクを貸し出すことに

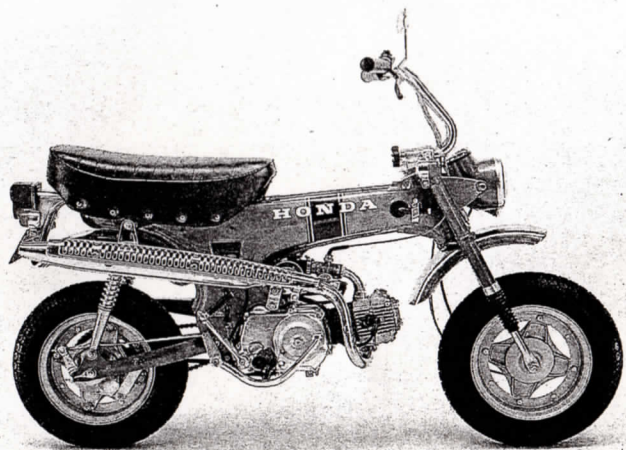
した。市は金がかからない展示方法を考え、展示台や間仕切り、ネーミングライツ(命名権)を利用するなどして展示を決めた。

4日からは「ダックスホンダST50」というバイクを展示する。日本の高度経済成長期の1969年に発売され、レジャーが盛んになった時代に「車に積んで出かける」という楽しみを提案したバイクとして知られている。

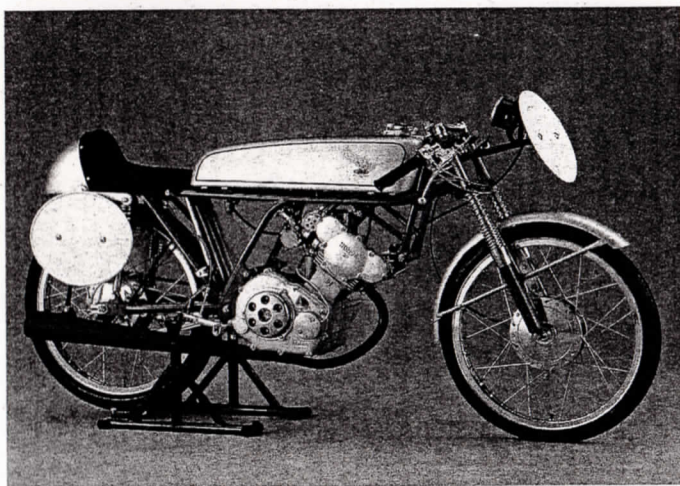
3月には、市販されていない81年式の本田クロス用ツインエンジンを使ったロードレーサーバイク「RS125RW-T」、4月には、世界のロードレースでも走った62年発売の「CR110カブレッシング」を展示する予定。

同社総務部は「展示を通してホンダや製品のことを知っていただきたい」と話す。松本市長は同社が和光市にエンジン生産と車体製造を一貫して行う工場を造ったことで急成長した背景にふれ、「和光市は本田宗一郎氏が選んだ場所であり、バイクを展示する文化的な意義は大きい」としている。

4日から和光市役所に展示されるダックスホンダST50(本田技研工業提供)



4月に展示する予定のホンダCR110カブレッシング(本田技研工業提供)



# 和光にホンダ歴代バイク

## 拉致問題「欲しいのは結果」

### 川口の会 早期解決を訴え

川口市と拉致問題を考える川口の会は1月31日、「拉致問題を考える川口の集い」を同市川口の「キョボ・ラ」で開き、拉致被害者や特定失踪者の家族が拉致

問題の早期解決を訴えた。同市出身の拉致被害者、田口八重子さん(失踪時22歳)の兄、飯塚繁雄さん(76歳)は拉致問題の再調査結果の報告が先送りされたことに

ついて「協議が始まって良い報告があれば良かったが残念ながらできない」と失望を口に、「欲しいのは結果。なるべく早くではなく目標に期限を設けていきたい」と話した。

特定失踪者、藤田進さん(失踪時19歳)の弟、隆司さん(56)は「特定失踪者の存在は知らない人が多い。さいたま市職員取崩事件 再発防止の検討委

討委員会」を設置した。件に至った要因などを検討し、今年度中に再発防止を公表する。委員会は局長級から市職員11人で構成。市コンプラ